

第9回

3巡目

四国あるき 遍路の旅



令和4年11月18日～11月20日
臨濟宗妙心寺派 圓福寺

Title: 松山から待望の再開

Date: 2022/11/18



新型コロナの影響で令和2年2月の第8回以後中断していた、四国あるき遍路の旅がようやく再開されました。前回の続きで、松山市から再び歩き始めます。

今回の参加者は15名、うち初参加3名、修行道場から戻ったばかりの住職の長男も参加しました。

伊予和気駅前、53番圓明寺



松山空港からバス・電車で移動した伊予和気駅前で、札所での行動を説明させていただき、納経帳係の雨海さんが早速納経料の集金をしてくれました。プランクがあってもぬかりなく、安心して歩けそうです。



歩き遍路再開して最初に降り立った駅が、伊予和気駅。なんとなくなじみのある駅名のような気がしていましたが、駅に降り立って気づきました。亡き女房の戒名に「和気」とつけていたではありませんか。駅名と戒名がつながるとは思っていませんでしたから、駅について気づいた次第です。喜徳院和気宗尚大姉、とはいっても、最後から女房が歩いてくるはずありませんが、これも何かの因縁。きっと参加された皆さんの安全と、無事結願までたどり着けるようにと祈ってくれているのだと思います。

さあ、再び歩き始めましょう。

Title: 53番圓明寺奥の院

Date: 2022/11/18

神主さんに勧められて

54番太山寺への遍路道途中の勝岡八幡宮の立派な石段に誘われて、お参りに立ち寄ると、神主さんが圓明寺奥の院に行った方がいいと進言してくださり、急遽奥の院に行くことになりました。地元の人、しかも神主さんのご進言とあれば、多少歩く距離が増えても行かざるを得ません。

たどり着くと、かつての隆盛は見る影もなく、お堂がぼつんとあるだけで、一同にただよう微妙な空気。そんな空気を打ち消すように般若心経を読んでお参りさせていただきました。まあ、急な予定変更の序章に過ぎませんが…。

円明寺奥の院でお参り



石段 勝岡八幡宮の
 〔上〕 神主さんと
 〔右〕 奥の院裏山
 からの景色



旅の記録

期日	曜日	コ	ス	予	定	食事・宿泊			
1	11月18日	金	7:15発 羽田空港 ANA583	08:45着 松山空港	8:55発 一空港リムジン	09:10着 松山駅前	【歩いた距離】約12km		
			09:36発 松山駅 JR予讃線	09:44着 伊予和気駅	一徒歩一 約0.3km	10:00着 53番圓明寺			
			10:30 ファミマで昼食調達	一徒歩一 約1.6km	勝岡八幡宮参拝	一徒歩一 往復約2.0km	円明寺奥の院		
			一徒歩一 約2.7km	勝岡八幡宮脇からハイキングコースに入り、急坂を登る。	14:00着 52番太山寺	昼食			
			一徒歩一 約1.5km	15:00着 伊予鉄高浜駅	13:58発 伊予鉄	14:29着 伊予鉄北久米駅	14:40着	昼食は、途中のローソンで各自購入	
			一徒歩一 約1.6km	16:10着 50番繁多寺	一徒歩一 約0.7km	17:00着 繁多寺口バス停から湯渡町下車			
			一徒歩一 約1.1km	道後温泉にて解散。ホテル直行・道後温泉入浴・夕食会場直行。はたまた蘭医者直行と各自に任せる。	19:15~21:30	道後温泉駅	19:15~21:30		
			一徒歩一 約0.8km	スーパーホテル松山	「お野菜食堂SOHOSH」で夕食	19:15~21:30		宿泊「スーパーホテル松山」 松山市此花町5-31 089-932-9000 夕食「お野菜食堂SOHOSH」 070-5510-7568 松山市大街道3丁目2-1.0	
			8:30発 宿出発	一徒歩一 約80m	勝山町駅	08:42発 路面電車	08:57着 松山駅	09:36発	【歩いた距離】約13.5km
			10:30着 大西駅 JR予讃線	一徒歩一 約3.4km	12:00着 54番延命寺	一徒歩一 約3.0km	12:50着 55番南光坊	13:30着 56番泰山寺	昼食は、途中のローソンで各自調達 延命寺で食べましょう。
13:30着 伊加奈志神社	一徒歩一 約1.0km	16:20着 57番栄福寺	一徒歩一 約1.0km	16:35着 一タクシー	16:50着 仙遊寺山門	宿泊「仙遊寺宿坊」 今治市玉川町別所甲483 0898-55-2141			
16:00着 一徒歩一 約0.3km	17:05着 58番仙遊寺	18:00 仙遊寺宿坊にて夕食				【歩いた距離】約10.2km			
3	11月20日	日	6:00 仙遊寺にて朝の勤行	7:30着 仙遊寺	一徒歩一 約1.3km	8:10 吉祥寺で休憩	一徒歩一 約5.1km		
			9:30着 59番国分寺	9:45着 一徒歩一 約2.4km	10:39着 櫻井駅口バス停	せとうちバス 11:06着 小松駅前バス停			
			一徒歩一 約0.2km	11:15着 62番宝寿寺	一徒歩一 約0.2km	11:30着 一徒歩一 13:00着	昼食	マルブン小松本店	昼食は「マルブン小松本店」 ランチコース
			13:16着 伊予小松駅	JR予讃線	14:13着 松山駅	一いよつバス一	14:50着 51番石手寺	15:10着	
			一徒歩一 約1.0km	15:30着 伊佐爾波神社	神社前にて一旦解散、各自空港まで移動する。				
			19:30着 松山空港 ANA598	21:00着 羽田空港					【歩いた距離】約35.7km

Title: 52番太山寺への隠れ難所 Date: 2022/11/18

52番太山寺への遍路道にて



太山寺への逆打ち、しかも車の往来の激しい幹線道路を離れての遍路道。今回は平坦なところが多いという定説を覆して、隠れ難所といった感じでした。勝岡八幡から太山寺への、地元のハイキングコースらしいのですが、あまり歩く人もいない様子でした。太山寺へは裏山から降りてくることになり、お昼の時間が予定より大幅に遅れてしまいました。



初参加の福澤さんには初日から急坂遍路道の洗礼を受け、高浜駅までタクシーで移動してもらうことにしましたが、タクシーが来ないというアクシデント！なんとヒッチハイクで高浜駅までたどり着いたという武勇伝を残しました。人生経験豊かなくまじさと、地元の人々の親切さに一同感動すら覚えました。



52番太山寺の国宝本堂前にて



Title: 50番繁多寺へ逆打ち

Date: 2022/11/18



【左】伊予鉄梅津駅にて なんとなく江ノ電からの景色に似ていました。

遠い石手寺、お大師さんの怒りか？

太山寺を打ち終えて50番繁多寺に逆戻り一なんて思わないでください。皆さんに道後温泉に入る時間をとるための苦肉の策なのです。しかも、太山寺隠れ難所のために高浜駅出発が遅れたので、繁多寺から路線バスで道後まで行くという離れ業を演じましたが、果たしてどれぐらい入浴時間があったのかは不明ですが…。

それよりも、予定していた51番石手寺をお参りできなかつたのは想定外でした。石手寺手前で足踏みしてしまい、なかなか石手寺にたどり着けないでいます。道後温泉にばかり思いが行って、この不屈き者一と石手寺のお大師さんがお怒りなのかもしれません。

その怒りを一手に引き受けたのが雨海さんだったのかもしれないと、今になって思います。幸いに、すでに抜糸も終えて元気になっていますので、ご安心ください。

これからは、薄暗くなるまで歩くことは禁物と、肝に銘じたいと思います。ご迷惑ご心配をおかけいたしました。

へんろ道途中にある道しるべ(繁多寺手前の遍路道で)



繁多寺でお参りを済ませると、すでに「夕陽」の時間になってしまいました。夕陽を浴びながら、今晚の予定を説明。バスで道後まで移動して、

- ① 道後温泉入浴後にホテル組
- ② 道後温泉入浴後夕食直行組
- ③ ホテル直行組





🏠 別れと出会い 🏠

前日夕方のアクシデントで、雨海さんはやむなく松山逗留となり、ホテル前で元気にお見送りしてくれました。「お大事に！」の言葉を出がけの挨拶に、一同2日目の出発です。

大西駅に向かう電車内で、住職は同席の人と話が弾んだ様子で、和尚がナンパ?と一同色めきだつ…わけないか。遍路話に盛り上がっていたようです。



「私も若い頃は、山登りとかよく行ってたのにねえ。うらやましいわあ。もう膝や足腰がだめでねえ。」

「まあ、わらじなの?」

🏠 ひたすらの歩きと無心のお参り 🏠

54番延命寺へは、大西駅から4kmほどの歩きがお決まりです。とはいえ、単調なこの道はいつも実際より長く感じられ、ひたすら歩くというのにふさわしい道です。特に冷たい雨の日の歩きは、ひたすら感が増しますが、この日はいい天気でした。

そのひたすらの歩きの果てにたどり着く札所では、やっと着いた安堵感や達成感で無心にお参りすることができます。してみると、ひたすらの歩きと無心のお参りは一体だといえる気がいたします。そういえば、初日のお昼ごはんも、やっとありつけたので、無心でたべましたっけ。



県道を歩く単調な遍路道ですが、宅間の集落の入り口に、「たぐま饅頭」というお菓子屋さんがあり、2巡目で味を占めたので、みなさんのおやつにと思い立ち寄ったのですが、閉まっていた。近くのおばさんが出てきて、お店が閉店してしまったことを教えてくださいました。「やっぱりお饅頭買いに来たお遍路さんだと思った。」

歩



参

Title: 55番南光坊、56番泰山寺

Date: 2022/11/19



1巡目の時、お参りを終えると、雑誌記者が近寄ってきて、取材を受けました。その後、四国遍路の雑誌に掲載されたことがありました。住職40代のころ。

55番南光坊

今治市街のかつてのランドマーク、お城の形をしたマンションを過ぎて、ほどなく南光坊に到着します。大山祇神社や黒住教教会、高野山今治別院などが並んでいて、どれが札所か迷いそうな門前ですが、二層の仁王門が

南光坊の入り口です。ここに来て、今回初めて団体のバス遍路一行と遭遇しました。遍路シーズンともなれば、そんな団体バス遍路で境内は雑踏のごとくなるんだろうなと思いつつ、団体さんが退去した大師堂で、貸し切りのようにお参りさせていただきました。

56番泰山寺

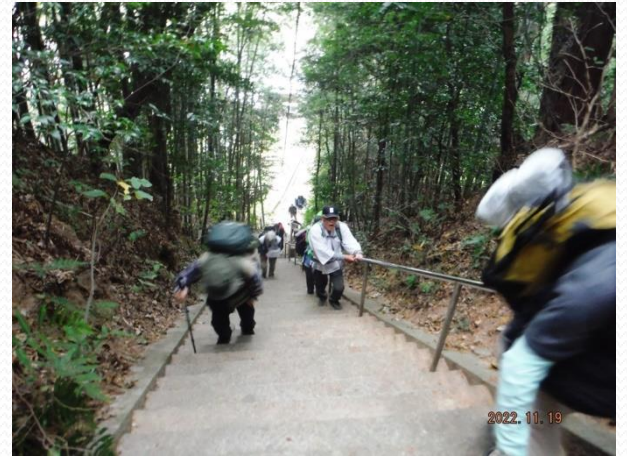


今治市街から南西に進み、住宅がまばらになったあたりに泰山寺があります。境内周囲の石垣が見事なお寺です。石垣とともに、かつては宿坊だったと思われる鉄筋コンクリートの建物の立派さが印象深い札所です。

石垣、白壁の塀などからすると、何年かの内には山門なども整備されるのだろうと、想像に難くありません。

かつては門前に茶店があって、ニッキ水などを売っていたのですが、とっくに閉店したようです。決してニッキ水が飲めなかったから言うわけではありませんが、茶店のおぼさんとの一言二言のやり取りが、歩き遍路の励みや安堵になっていたような気がします。それもまた、四国八十八か所の遍路文化の一部と考えると、単に茶店がなくなったというのではなく、また一つ文化遺産が消失したということになります。これは、世界文化遺産の登録を目指す四国の人にとっては、大きな痛手に違いありません。前述のたくま饅頭といい、ニッキ水といい、食べ物の恨みは恐ろしいのです。





関門、伊加奈志神社と石段に寄せて

56番泰山寺から57番栄福寺へのかつての遍路道は、蒼社川を川床を歩いて渡り、伊加奈志神社の急な石段を登り、尾根伝いに続いていたに違いありません。そして、現在の石清水八幡宮が廃仏毀釈前の栄福寺だったのだらうと思います。その神社の西麓を回り込めば栄福寺に行くことができますが、あえてかつての遍路道を歩いた次第です。

以前に来た時には、八幡宮からの石段を下るとすぐに左手に栄福寺だったのに、その石段が崩れかけているようで通行止めになっていました。（下の写真）仕方なく車道でぐるっと遠回りを余儀なくされてしまいました。

遠回りさせられたからではなく、この崩れかけの石段も、世界文化遺産をめざす四国遍路の一部と考えるのであれば、歴史的に廃仏毀釈前の遍路道も文化遺産にするの



思わずしゃがみこんだりするほどきつい石段でした。

かなんていう時代的な要因も議論していかなければならないのではないかと考えてしまいます。車社会になってしまっている現代、ほとんど誰も歩くこともなくなった石段の道を、いったい誰が資金を出して修理していくのか、これまた世界文化遺産への登録上難しい課題になるのではないかと気になりました。たまに歩く人間が口をはさむことではないかもしれませんが、これまで長い間、遍路道を整備してきたにしえの人たちや、台風の後の倒木を片付けてくれたり、生い茂った草を刈ったりしてくれている人に感謝しつつ、心配しています。



【左】坂道登りきったところが石清水八幡。大きな石の鳥居が見えます。この石段が通行止めでした。



タクシー分乗の緊急措置

栄福寺をお参りし終えると、時刻は午後4時半。短い秋の日は暮れ始めています。あいにく仙遊寺への遍路道わきの犬塚池が工事中で、遍路道は迂回しなければならず、これから歩いての仙遊寺は、到着時に暗くなるのが予想され、昨夕のアクシデントも考慮して、急遽タクシーで仙遊寺に向かうことにしました。

それでもまだ歩きにこだわり、山門前で降りて山道の参道を歩く組と、本堂横までタクシーで行く組とに別れてということになりました。

参道踏破組が本堂前にたどり着くと、麓に見える今治の町には明りが灯り始めていました。本堂でのお参りも外灯のもとででした。

二日目の宿は仙遊寺宿坊。以前は奥さん手作りの精進料理がきれいに並べられたのですが、聞けば奥さんが8年前に亡くなられ、それ以後、朝晩二食ともお弁当ということでした。ビール・日本酒ともセルフサービス、小さな冷蔵庫はあつという間に空になりました。

宿坊には珍しい温泉のお風呂に入らせていただき、二日目の疲れをいやしつつ、一同爆睡だったようです。

奥さんのご冥福をお祈り申し上げます。



「あー。」禁断のタクシーに乗ることになってしまった。でも、暗い遍路道を歩く危険性を考えたら、仕方ないか！

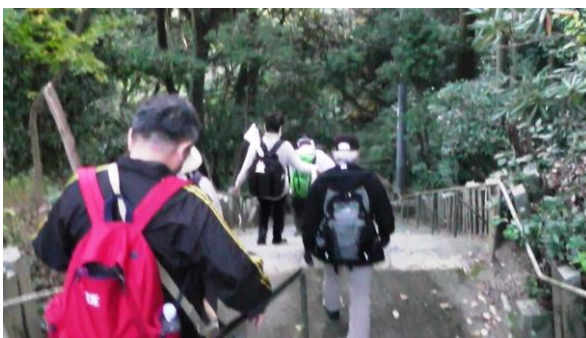


2022.11.19



お参りの時には5時を過ぎていましたが、お参りさせていただけました。札所によっては、時間に厳しいところもありますから、その親切に感謝です。

仙遊寺からの下り



2022.11.20



2022.11.20

【左】境内からいきなり急な石段を下る
【右】五郎兵衛坂のあたりの遍路道
【下左】遍路道の分かれ道 今回は左から降りる
【下右】麓で振り返ると山の上に仙遊寺が見える

Title: 59番国分寺、62番宝寿寺

Date: 2022/11/20

59番国分寺大師堂諷経



仙遊寺を望む麓まで下りたら、あとは嘘偽りなく平坦な道です。晴れ渡った青空のもと、単調な舗装道路です。落ち葉が降り積もったふかふかの山道が恋しくなります。

国分寺から桜井駅口のバス停まで歩き、新居浜行きバスに揺られて62番宝寿寺の門前ま

62番宝寿寺本堂諷経



で移動。

お参りして宝寿寺納経所に行くと、諷経の音が聞こえていたらしく、いいお経だったねえとお褒めの言葉をいただきました。なにしろ大師堂の中に入ってお参りできたもので、音響効果もよかったものと思われま



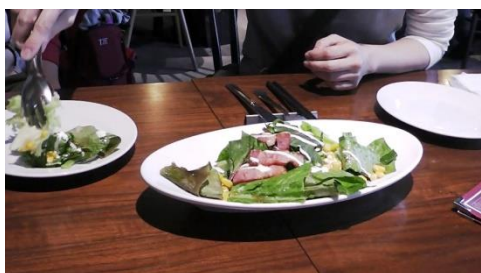
歩き遍路史上初の イタリアン

三日目の昼食は、定番のコンビニごはんではなく、なんとイタリアンでした。

ちょうど宝寿寺のお参りを終えてお昼の時間。ネット上でおあつらえ向きの食事場所と予約したのが、マルブン小松本店という店でした。小さな伊予小松という無人駅前の店という先入観を覆す、行列のできている名店だったようです。

行列を横目に入店するのが申し訳ないような気がしましたが、歩き遍路の服装のまま入らせていただきました。

お料理も予約してありましたので、つぎつぎと出際よく出していただき(左の写真)、思いがけず本格イタリアンをいただくことができました。



Title: 51番石手寺

Date: 2022/11/20

歯抜けの石手寺に向かう

三日目の予定を変更して、ランチの後は伊予小松駅から松山に戻り、路線バスで石手寺に行くことにしました。

壬生川で乗り換えた特急は、アンパンマン列車で、子どもではなくとも「オーッ」と感嘆の声が聞こえました。路線バスは石手寺の目の前に停車し、横断歩道を渡れば石手寺でした。歩きだと石手寺正面の道を次第次第に近づいて、たどり着いた時の感慨はひとしおなのですが、団体バス遍路並みにあれよというまに札所に到着した感じでした。

山門前で、松山で逗留していた雨海さんと合流し、全員そろって今回最後のお参りを済ませることができました。「アーッ、今回の歩き・お参りもこれで終わったーっ。」と思ったのですが、話におちがあるように、歩き遍路にもきちんとオチがあるのです。



アンパンマン作者のやなせたかしさんは高知出身。でも、四国じゅうでアンパンマンにあやかっているのですね。



物思いにふけっているわけではありません。疲れ切って放心状態？の福澤さんです。お疲れさまでした。



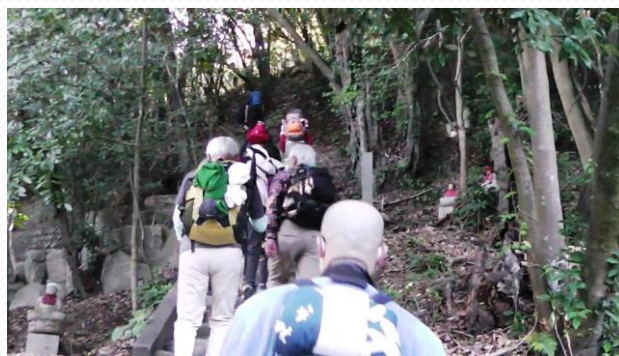
最後まで気を抜かな・・・いよっ！

伊予小松から石手寺まではほとんど歩くこともなく、もう今回は歩きはないだろうという大方の予想に反して、石手寺から道後に抜ける山越えの遍路道が残っていました。もう歩かなくていいという気持ちにな

っていたところでの登りはとどめを刺されたという感じだったかもしれません。

そのかわりといっちは何ですが、山越えた伊佐爾波神社で解散して、温泉で休憩する時間を設けたことでお許しください。

三日間、お疲れさまでした。



あとながき

新型コロナウイルスの感染拡大の中止から再開した第9回でした。感染予防のために宿はシングルを手配するとか、最低限の対策をしての歩き遍路でした。ブランクがあった分、どこかに先を急がなければという意識があったのかもしれない、夕暮れの中を歩くなんていう歩き遍路にあるまじき行動をとってしまい、

反省しきりです。

宿はシングルの安いところを探のですが、夕食は外食となり、その分費用がかさむこと、大人数の食事が果たして感染対策にかなっているのかいささか疑問が残りますが、同じ辛さや喜びを味わった者同士と一緒に食事をするのも歩き遍路の醍醐味という調味料だと思うので、お許しただければと思います。

では、また次回、元気に歩きましょう。

圓福寺 四国あるき遍路の旅 3巡目第9回写真集



勝岡八幡宮



伊加奈志神社



59番国分寺

令和4年11月18日～11月20日